

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和3年4月22日	
記入者	団体等名	NPO 法人病児保育をつくる会
	記入者名	三上 久子
	部署名	子育て支援課
	記入者名	中村 雄貴

1 | 協働事業の概要

協働事業名	緊急サポート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人病児保育をつくる会
	行政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	<p>【目的】 緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援する。</p> <p>【目標値】 利用件数 件、利用会員数 名、協力会員数 名、講習受講者数 名</p>	
事業の内容	小学生まで児童を対象に病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行う。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	利用件数 17 件(病児 1 件、預かり 4 件、送迎 12 件)、利用会員数 208 名、協力会員数 25 名	
協働事業決算	総額924,000円 (うち市負担分924,000円)	
	簡単な内訳	委託料 (内訳) 人件費 657,519円 広報費 41,555円 講習会費用 64,869円 保険費用 9,713円 通信費 42,139円 一般管理費 91,667円 その他 16,538円
実施期間	令和2年4月1日 から令和3年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和3年4月20日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 サポート会員に係る講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 サポート会員に係る講習会の周知方法を改め、受講者が増加するような改善策を図り共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和3年4月22日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島 真由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	中村 雄貴

1 | 協働事業の概要

協働事業名	ホームスタート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】育児に不安を抱えている保護者を対象に家庭訪問を通じて育児相談を行い、保護者の孤立を防ぐ。 【目標値】訪問回数:200回	
事業の内容	未就学児を抱える引きこもりがちな親に対して、一定のノウハウを身につけた地域ボランティアが自宅へ出向き、何気ない会話のなかで孤立感を防止し、児童虐待を防止することはもとより、家族のエンパワーメントを図ることで子どもの利益を実現する。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	訪問回数:239回 ビジター数:37名	
協働事業決算	総額1,516,000円(うち市負担分1,516,000円)	
	簡単な内訳	人件費:1,182,900円 研修費:108,900円 通信費:48,000円 消耗品:30,000円 交通費:80,000円 その他:66,200円
実施期間	令和2年4月1日 から令和3年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日： 令和3年4月19日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナ禍において、ビジターを家に入れるというリスクがあるにもかかわらず利用希望が多い状態であることを共有した。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 感染予防対策について徹底しながら、多様化するニーズに対応できるよう、ビジター（訪問支援員）のスキルアップと人員確保についての必要性を共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和3年4月22日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島 眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	中村 雄貴

1 | 協働事業の概要

協働事業名	子育て支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	<p>【目的】児童福祉法に定められた子育て支援事業の一つ。地域における子育てを支援するため、子育て中の親子の交流の場の提供、子育て相談、地域の子育て関連情報の提供など、子育て支援センターの運営を行う。(美南子育て支援センター及び中央子育て支援センター)</p> <p>【目標値】 利用者数(延べ) 合計7,800人</p>	
事業の内容	<p>(1)子育てサロン等子育て支援事業の展開 (2)出前講座の開催 (3)吉川市子ども・子育て応援サイト「よよしねっと」の管理運営</p>	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>利用者数(延べ) 美南子育て支援センター:5,169人 中央子育て支援センター:3,604人</p>	
協働事業決算	総額13,594,000円 (うち市負担分13,594,000円)	
	簡単な内訳	<p>人件費 12,742,371円 消耗品 80,000円 負担金等 65,200円 研修費 15,000円 講師謝金 60,000円 賠償保険等 45,130円 その他 586,299円</p>
実施期間	令和2年4月1日 から令和3年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日： 令和3年4月19日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式)</p> <p>【団体⇒行政】 提供されている備品などについて、現場目線の意見が取り入れられるなど、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。 目的のすり合わせをして、目的に合った行動の選択を共有できた。</p> <p>【行政⇒団体】 同上</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。(記述式)</p> <p style="text-align: right;">記入者【 団体 ・ 行政 】</p> <p>支援センターを運営するうえで、疑問や不安などを感じた時は、言語化して共有し、より目的を意識した行動の選択が出来るように改善を図った。</p>		

吉川市協働事業評価シート_2020.ver1.2

提出日	令和2年8月9日	
記入者	団体等名	NPO法人 環
	記入者名	島崎 允行
	部署名	こども福祉部子育て支援課(児童館)
	記入者名	千葉 俊樹

1 | 協働事業の概要

協働事業名	夏休みお楽しみワクワクエコ教室						
事業の実施者	団体等	NPO法人 環					
	行政	こども福祉部子育て支援課(児童館ワンダーランド)					
事業の目的及び目標値	小学生以下の児童を対象に、体験や観察を通して、自然環境保護の大切さを学ぶ。						
事業の内容	1 児童館や二郷半用水路周辺で生き物の観察、間伐材を利用した虫のすみかで生き物調査をする。 2 雑紙を活用し匂い袋を作成し、ラベンダー等の自然の香りを入れる。 3 レジ袋削減の話と、マイバッグづくりを体験。 4 森の役割の保護の大切さを学び、間伐材でストラップをつくる。						
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	1回/親子で31名の参加。 (屋外での観察教室以外は、各講座に定員を設け、30分毎の入替制とするなど、コロナ対策を講じた。)						
協働事業決算	総額5,386円						
	簡単な内訳	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>人件費</td> <td>4,000円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>消耗品費</td> <td>1,386円</td> </tr> </table>	1	人件費	4,000円	2	消耗品費
1	人件費	4,000円					
2	消耗品費	1,386円					
実施期間	令和2年7月30日						
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助						

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和2年8月4日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、どのような課題(共有・認識の差等)を話し合い、共有しましたか。(記述式) 【団体】 新型コロナが蔓延中の為、今年の開催が危ぶまれる中、自粛中の子供達を元気づける為にもと、児童館の想いと我々の方向が会い、実現出来た事に一同感謝。 計画から当日含めて、連絡及び情報交換を緊密に実施、又、当日は児童館から多くの物、人共に支援を頂き感謝。 【行政】 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、どのような形で実施すれば事業の目的を達成できるかの検討が必要な年となった。そこで、実施形態(昨年度は2日間での実施であったが、今年度は1日での開催とする)などを事前に協議すると共に、準備備品や役割分担についても協議し、認識を共有した。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合い共有しましたか。(記述式) 【団体】 作業開始前に、業務内容の確認以上にコロナ対策が必要な事から、実行前後を含めての作業全般の確認を実施、事故なく終了した経験を今後生かす。 【行政】 事前に団体との十分な協議を図ったほか、事業実施までにも必要な事項の確認を行ったことが奏功し、コロナ禍の中でも参加者に楽しんでもらい、事業の目的を達成できたことから、今年度の経験を次年度の協働事業に繋げていく。特に、3密対策として行った参加人数の制限や2階ギャラリー(オープンスペース)での実施、換気、教室の机を互い違いに配置する、講師と参加者は対面を避けるなどの対策は、今後の事業にも応用できる。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和3年4月30日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事 野田 妙子
	部署名	健康長寿部長寿支援課
	記入者名	浅子 千尋

1 | 協働事業の概要

協働事業名	老人福祉センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、老人福祉センターの指定管理者として施設の管理をするとともに、高齢者に対して各種の相談に応じ、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションの供与などの運営をすることを目的とする。	
事業の内容	老人福祉センターは高齢者の教養の向上、健康の保持増進、社会参加の拡大、いきがいづくりなどを目的に設置された施設である。平成18年度から吉川市連合長寿会が指定管理者として運営していたが、令和2年度より NPO 法人たすけあい・よしかわが指定管理者となった。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	1 施設利用状況 令和2年度 利用者数:9888名 利用団体数:261団体 2 寄り日開催状況 令和2年度 クラブ数:81団体 開催日数:58日 参加人数:893名 3 自主事業 健康体操と健康相談 回数:2回 参加人数:22名 抹茶体験 回数:2回 参加人数:7名 マッサージ教室 回数:2回 参加人数:14名 笑いヨガ 回数:14回 参加人数:163名 スマホ教室等 回数:27回 参加人数:153名 他イベント2回 愛称募集:シニア活動センターぱれっと に決定	
協働事業決算	総額 28,387,000 円 (うち市負担分 28,387,000 円)	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和2年4月1日 から令和3年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和3年4月13日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式) 【団体⇒行政】 令和2年度は新型コロナウイルスの影響で施設利用者が大幅に落ち込んだ。また、演芸大会2回や高齢者スポーツ大会などの大きなイベントも中止となってしまった。一方で、老人福祉センターの愛称を決定し、駐車場の整備を行い、様々な自主事業を展開することができた。いままで利用しなかった高齢者が利用するような運営を続けていきたい。 【行政⇒団体】 指定管理者となり、初めての年度が新型コロナウイルスの影響で様々なイレギュラーが発生したが、適切な対応をしていた。今後は中止になったイベントを含め利用者の拡大に努めてほしい。また、以前からの利用者との調整も願います。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。(記述式) 【団体】 今後も様々な角度から自主事業を検討および展開し新規の利用者を増やしていきたいと思う。 【行政】 来年度より広報よしかわにて老人福祉センターで行われるイベントを掲載する欄を公共施設からのお知らせに追加できた。引き続きPR活動や行政としてできることに協力していきたい。		

吉川市協働事業評価シート 2021.ver1.3

提出日	令和3年4月30日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事 野田 妙子
	部署名	健康長寿部長寿支援課
	記入者名	野口 英里子

1 | 協働事業の概要

協働事業名	生涯現役の養成事業～世代を越えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎え地域デビューを希望する男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的とする。	
事業の内容	男性シニアの地域活動などへの参加を後押しするため、NPO 法人たすけあい・よしかわに事業を委託し、シニア元気塾(グループ別活動)を5月から10月の第6期、11月から2月の第7期の2期に分けて実施した。また、シニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行った。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>1 シニア元気塾の開催 野菜作り、高齢者福祉の増進(福祉有償運送事業)、スポーツで子どもたちと交流、吉川市歴史探訪・ウォーキングの4グループで活動した。 参加者数:延べ 317 名 (福祉有償運送事業については 746 件の利用があり、6803.6 キロの運送を行った)</p> <p>2 シニア元気塾たまり場の開催 毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動(笑いヨガ、歌声喫茶、英会話など)の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行った。今年度は新たに、夏休みの期間を利用し小学生向け夏休み学習支援を行った。 参加者数:延べ参加者数 156 名</p>	
協働事業決算	総額 1,128,000 円 (うち市負担分 1,128,000 円)	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和2年4月20日 から令和3年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和3年4月21日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式)</p> <p>【団体⇒行政】 多くの市民に参加してもらうには企画の信用性や公共性の担保が必要であり、行政の支援はとても重要だった。本事業の継続には、コロナ禍であっても感染対策を徹底しながら、参加者の自主的な活動を支援していくことである。参加者の声を聞き、事業に反映させていくサポートを進めていきたい。地域に根ざした市民団体の力という強みと役割を認識しつつ、活動を継続できていることは大きな収穫であり成果であったと確信できた。</p> <p>【行政⇒団体】 平成29年より継続して本事業の取り組みを行ってきており、今年度は具体的なグループ活動を通じて男性シニアの地域活動の参加促進を図ることができた。以上の課題について情報共有を図れた。</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。(記述式)</p> <p>【団体】 今年度行った事業を引き続き行うとともに、グループ間の横のつながりを充実させるとともにさらなる活動の展開を目指し、多様な世代や団体とのコラボレーションに取り組んでいく。</p> <p>【行政】 引き続き男性シニアの地域活動の参加促進を図るため、新規参加者の募集や団体の取り組みについてPRや広報を行うなど支援を行っていく。</p>		

提出日	令和3年 4月 26日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長 立澤 秀子、学習部会長 庄田 憲一
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	片桐 駿介

1 | 協働事業の概要

協働事業名	日本語教室	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。	
事業の内容	<p>主催：吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など)</p> <p>共催：吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など)</p> <p>ボランティアスタッフが日本語で日本語を教える形式で実施。基本的に学習者とスタッフが1対1で生活に必要な日本語を学ぶ。</p> <p>※コロナ以前は毎週火曜日(祝日と第5火曜日は休み)に実施していたが、令和2年度は第2、第4火曜日のみで、10月～12月のみ実施。</p>	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>・日本語教室 第二、第四火曜日 午前の部(10時～12時)、夜間の部(19時～21時) 年間12回実施 ※4月～9月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響で中止。</p> <p>・参加者延べ人数</p> <p>午前の部 学習者 26人、スタッフ 44人 夜間の部 学習者 15人、スタッフ 32人 合計 学習者 41人、スタッフ 76人</p>	
協働事業決算	総額	169,587円 (うち市負担分 0円)
	簡単な内訳	<p>支出 169,587円</p> <p>コロナ対策備品(消毒液、非接触型検温器、フェイスシールド等)</p> <p>通信機器(タブレット)</p> <p>※市から吉川市国際友好協会への補助金 55万円</p> <p>うち日本語教室への補助率 10/10、169,587円補助</p>
実施期間	令和2年4月 1日 から令和3年3月31日 まで	
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日： 令和3年4月21日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式)</p> <p>【団体⇒行政】 新型コロナウイルスの影響で日本語教室の開催は3ヶ月間と限定的であった。ボランティア達による、教室再開に向けての話し合いに行政の協力を得られた事は大変心強かった。またボランティア養成講座の開催、市民参加推進課窓口での直接対応など行政独自の取り組みも支えになった。新型コロナウイルスの収束が見通せない今年度も、行政との二人三脚は欠かせられない。</p> <p>【行政⇒団体】 ・コロナ禍により休止が続いていたが、再開について話し合うミーティングに市職員も参加し、検温やフェイスシールドの着用、体調確認など、コロナ対策の情報共有と準備を行って再開できた。 ・ボランティアスタッフは高齢者が多いため、屋内・対面・近距離で日本語を教える活動に難色を示すスタッフもあり、安定的にスタッフを確保しながら事業を実施していくのが難しい。参集したくないが活動に参加したいスタッフや学習者に、オンラインで日本語教室を実施するための課題(通信環境や準備する機器、実施方法など)を話し合った。</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。(記述式)</p> <p style="text-align: right;">記入者【 <u>団体</u> ・ 行政 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況により刻々と変わる新型コロナウイルス対策の情報を共有し、事業の安全な実施を図る。 ・市主催で実施した「日本語教室ボランティアスタッフ養成講座」受講者の定着を目指す。 ・オンラインを活用した取り組みを検討し、スタッフの負担を軽減し、参加しやすい体制を目指す。 		

吉川市協働事業評価シート_2020.ver1.2

提出日	令和3年 2月 16日	
記入者	団体等名	環境ネットワークよしかわ
	記入者名	島崎 允行
	部署名	環境課
	記入者名	浅見 祥子

1 | 協働事業の概要

協働事業名	緑化推進事業								
事業の実施者	団体等	環境ネットワークよしかわ							
	行政	吉川市環境課							
事業の目的及び目標値	ゴーヤのカーテンの設置を希望する公共施設に対して、ゴーヤの苗を配布し施設管理者調整の上、設置作業を実施する。								
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 苗の準備(含む育苗) 2 環境課に希望申請した公共施設に、苗を配布(6~7月)。 3 施設管理者からの希望により、苗植作業の実施。 4 施設管理者に、水やり等の管理の指導及び情報提供。 5 施設管理者の希望により、ネットの取り外し作業の実施(10月頃)。 6 環境課は公共施設との連絡窓口 7 問題発生時は双方で協議の上対処する。 								
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>コロナ感染対策から大幅に内容変更を余儀なくされ、公共施設3カ所に対して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部地区市民センター 4本 ・老人福祉センター 6本 ・少年センター 6本 								
協働事業決算	総額	44,500 円 (うち市負担分 44,500 円)							
	簡単な内訳	<table border="0"> <tr> <td>1 苗代</td> <td>19,800円</td> </tr> <tr> <td>2 箇所への運搬費</td> <td>13,000円</td> </tr> <tr> <td>3 ネット張り用資材返却経費</td> <td>8,700円</td> </tr> <tr> <td>4 スタッフ人件費</td> <td>3,000円</td> </tr> </table>	1 苗代	19,800円	2 箇所への運搬費	13,000円	3 ネット張り用資材返却経費	8,700円	4 スタッフ人件費
1 苗代	19,800円								
2 箇所への運搬費	13,000円								
3 ネット張り用資材返却経費	8,700円								
4 スタッフ人件費	3,000円								
実施期間	R2年 5月 1日 から R2年 8月 31日 まで								
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助								

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日： R2年 10月6日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、どのような課題（共有・認識の差等）を話し合い、共有しましたか。（記述式） 【団体】 コロナ感染予防から、事業内容の大幅変更を余儀なくされたが、早期の綿密な確認打合せにより円滑に実施できた。 【行政】 新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令され、苗の配布時期が後ろ倒しとなったが、団体と迅速に調整し、宣言解除明けには公共施設に苗の配布を実施できた。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合い共有しましたか。（記述式） 【団体】 ①作業開始前に、業務内容の確認と役割分担等の確認が重要。 ②市役所周辺での実施がなくなったのは寂しいが、今後も市民啓発及び企業へ注力。 【行政】 旭地区センターで長年実施していたネット張り架台設置を本年度で終了となったこと、また、環境ネットワークよしかわの法人化により、来年度以降の委託事業の実施については別途協議する。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	R3年 4月30日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長 立澤 秀子
	部署名	学校教育課
	記入者名	久富 芳明

1 | 協働事業の概要

協働事業名	外国人児童生徒への日本語学習支援	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行政	学校教育課
事業の目的及び目標値	市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。	
事業の内容	<p>・諸外国から入国(転入)し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会(学校教育課)が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。</p> <p>・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。</p>	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	対象となる児童生徒 28人	
協働事業決算	総額711,000円 (うち市負担分711,000円)	
	簡単な内訳	<p>活動単位 一時限 小学校45分、中学校50分</p> <p>一時限あたりの委託料 1,000円</p>
実施期間	令和2年4月8日 から 令和3年3月26日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日：令和3年4月 日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 支援授業時間毎の活動報告書を支援者毎に作成し、課題を相互に確認することが出来た。 児童生徒により個人差があり、コミュニケーション能力の向上を目指した。 【行政⇒団体】 活動報告書により団体と学校間での情報の共有は図られている。より一層の綿密な連携が望ましい		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 【団体】 本事業の意図を支援スタッフにも理解してもらい、児童生徒の能力向上をより高める。 【行政】 教職員に対しても本事業の意図を理解してもらおう。 引き続き、国際友好協会、学校、市教育委員会間で必要に応じた連携を図れるようにする。		

吉川市協働事業評価シート 2021.ver1.3

提出日	令和3年 4月 30日	
記入者	団体等名	美南小学校区 子どもの体験活動実行委員会
	記入者名	倉本 則子
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	新井 瑞穂

1 | 協働事業の概要

協働事業名	子どもの体験活動事業	
事業の実施者	団体等	美南小学校区子どもの体験活動実行委員会
	行政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	家庭・地域・学校が一体となって子どもの生きる力を育むため、各小学校区に設置した実行委員会により様々な体験事業等を企画し、子どもたちの奉仕活動や体験活動などを推進する。	
事業の内容	市内の子どもを対象とした事業目的に沿う活動を実施する団体(実行委員会)に対し、交付金を交付する。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	(令和2年度実績) ○美南小学校区 3事業 194名	
協働事業決算	総額 61,699円 (うち市負担分 27,049円)	
	簡単な内訳	企画・会議費 13,000円 子どもの活動費 48,699円(交付対象11,849円)
実施期間	令和2年 4月 1日 から 令和3年 3月 31日 まで	
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	△
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	△
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	△	△
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	△
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日： 令和3年4月28日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	△
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体】 ボランティア団体であるため人材の確保が難しく、今後も事業を継続していけるかわからない。 【行政】 ・新型コロナウイルス禍における事業の実施方法を柔軟に話し合った。 ・事業報告において、提出された帳簿から、項目の全てが交付金補助対象経費に該当するか等話し合った。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 <u>団体</u> ・ 行政 】 【団体】 PTAの特別委員会となり、在校生の保護者を中心に活動していく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和3年4月30日	
記入者	団体等名	指定管理者OITグループ
	記入者名	土本 達也
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	岡庭 直樹

1 | 協働事業の概要

協働事業名	市民交流センターおあしす指定管理者事業	
事業の実施者	団体等	指定管理者OITグループ
	行政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	市民交流センターおあしす、市立図書館、視聴覚ライブラリー、中央公民館図書室、旭地区センター図書室の管理運営に関し、指定管理者による適切な業務が遂行されるよう管理監督を行う。	
事業の内容	市民交流センターおあしすや市立図書館をはじめとする各図書室の運営と管理を行うとともに、おあしす運営協議会や図書館協議会を開催する。また、利用者に対する満足度調査を行う。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	(令和2年度実績) おあしす利用実績 利用件数:4,592件、利用人数:40,122名 市立図書館利用実績 貸出冊数:327,770冊、利用人数:73,126名、 入館者数:107,066名	
協働事業決算	総額 222,770,000円 (うち市負担分 222,770,000円)	
	簡単な内訳	施設管理業務委託料 222,770,000円
実施期間	令和2年 4月 1日 から 令和3年 3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和3年4月28日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）</p> <p>【団体⇒行政】 新型コロナウイルス感染症に対する施設運用について、またコロナ禍における利用者への対応について協議・共有し対応した。また施設老朽化に伴う設備修繕箇所について情報共有し一部対応した。</p> <p>【行政⇒団体】 新型コロナウイルス感染症に対する施設運用について、施設の利用者への対応や、緊急事態宣言下における市職員の利用について話し合った。また、施設・設備の老朽化に伴う修繕や交換が多くなっていることもあり、今後の対応について話し合った。</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）</p> <p style="text-align: right;">記入者【 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 ・ <input type="checkbox"/> 行政 】</p> <p>コロナ禍における施設運営において、支障をきたさないよう対応していくことを話し合った。</p>		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和 3年 4月22日	
記入者	団体等名	子育て広場プーさん
	記入者名	嶋田 曜子
	部署名	生涯学習課 中央公民館
	記入者名	森 恵子

1 | 協働事業の概要

協働事業名	幼児家庭教育学級(赤ちゃんサロン)「ゼロママ集まれ！」	
事業の実施者	団体等	子育て広場プーさん
	行政	吉川市中央公民館
事業の目的及び目標値	子育て中の母親が抱える子育ての不安・悩みやストレス等を解消する一助となるよう、「子育て広場プーさん」と協働で開催し、年齢の近い子どもを持つ母親が集まる場を提供するだけでなく、専門の講師等から有用な技術を得ることができる事業を展開する。	
事業の内容	わらべ歌・絵本の読み聞かせ、ピラティス、救急救命講習、ベビーマッサージなど	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	実施回数 全5回 参加者数 28組 56人	
協働事業決算	総額 14,000 円 (うち市負担分 14,000 円)	
	簡単な内訳	会場使用料免除 印刷代は市が負担 講師謝礼金 14,000円負担
実施期間	令和 2年10月28日 から令和 3年 3月24日 まで	
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	×	×
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和 3年 3月24日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 定員数が少ない中ではありましたが、毎回良い雰囲気で開催できた。 【行政⇒団体】 コロナ対策を講じた形での内容となるよう講師との調整を行っていただき、スムーズに開催できました。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 】 コロナ禍の中では次年度もコロナ対策を講じた形態で開催を継続していく。		